

ダーナ

浄土宗平和協会会報 VOL.

Dana

25

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第25号
発行日●平成26年12月25日
編集／発行●浄土宗平和協会（JPA）
発行人●荻野順雄

Jodo Shu Peace Association

今回のダーナでは、平成2年の浄平協創立からほぼ25年、四半世紀にわたって、事務局長、副理事長、理事長をを続けられている荻野順雄現理事長に創立以来の歴史をうかがった。

昭和63年の秋、長崎であった教化推進会議で宗内で平和を希求する団体を作るべきだという決議があり、そのときの司会をしたのが、この会に関わるきっかけでした。平成2年12月に総本山の和順会館で発会式があり、当時の長島善雄理事長から事務局長に指名されました。

その頃、湾岸戦争が勃発し翌年の2月、手探り状態で戦争難民の救済募金を始めたところ、なんと2,000万円を超す浄財が、各御寺院から寄せられました。

その後、数年間は戦没者の50回忌を迎えるということで長崎、広島、沖縄など各地で戦没者追悼法要を行うとともに、現在の「平和念仏募金」の原型となる聖日献金をはじめ、平成9年から日本の各NGOへ支援することができました。また、支援するNGOの活動現場を体験するスタディーツアーも始め、第1回はカンボジアで隔年で実施、本年度は8回目でニューヨーク・ボストンでした。

最も印象に深かったのは、平成18年、浄土宗平和推進協議会から、会員制を伴った浄土宗平和協会に衣替えしたことです。最初はわずか38人の会員からスタートしたのですが、宗内の皆さまのご理解を得て、賛助会員まで含めると本年度600人近い会員までなりました。

荻野順雄理事長に聞く

浄平協とともに四半世紀

浄土宗平和協会となって、平成19年に理事長に就任しました。念願の独自事業として、私費留学生に希望図書（一人10,000円以内）を贈る「ブックギフト」、社会参加する仏教者を顕彰する「浄土宗平和賞」を始めたのも印象深いです。

この間、通常のNGO支援のほかに、平成15年イラク・アフガニスタン難民救援（440万）、同16年インド洋津波被災者救援（1,500万円）、同20年ミャンマーサイクロン災害+中国四川省地震被災者救援（1,230万円）、同23年東日本大震災救援（880万円）などの各種緊急募金も行い、国内の各NGO、UNCTADなどを通じて、被災者の支援を行いました。また同時にチベット動乱、ミャンマーの市民弾圧に対して平和声明も出しています。

浄平協の独自事業である「ブックギフト」は今では、東京だけでなく、関西（京都）、名古屋でも行うようになり、今年は70人を超す私費留学生に、希望する図書を贈呈することができました。

こうした活動ができるのも、宗内の皆さまのご理解、スタッフの努力のおかげだと、日々感謝しております。



荻野順雄理事長

今年も受賞者の笑顔がはじける ～ブック・ギフト、78名に希望図書を贈呈～

私費留学生に希望の図書を贈呈する第7回ブック・ギフトは、11月から12月にかけて、東京（大本山増上寺）、名古屋（建中寺＝名古屋市東区）、関西（大本山百万遍知恩寺）の3カ所で行われた。3会場で合計78人の留学生が、嬉しそうに希望図書を受け取った。

ブック・ギフト活動は、浄土宗平和協会（JPA）の主要な活動の一つで、東京、関西（京都）、名古屋地区で実施された。東京都、愛知県、関西圏の大学に通学する私費留学生に、日本語でレポートを書けば、一万円以内の希望する図書を受領できる、というもの。本年度の作文のテーマは、「私の留学生活」、外国人とは思えない流ちょうな日本語で書かれたレポートが集まった。

11月30日に贈呈式行われた東京会場では、東京大、立教大など12の大学から23人（1人欠席）の応募があり、増上寺大講堂で、荻野順雄浄平協理理事長から図書を受け取った。国籍別では中国13人、韓国6人、台湾1人、ベトナム3人。12月1日の関西会場は、百万遍知恩寺で行われ、36人の応募があった。京都大学が16人、大阪大学7人、佛教大学1人などで、東アジアだけでなくインド、スリランカ、ベトナム、モンゴルなどからも応募があり、服部法丸台より、直接、図書を受け取ったほか、御影堂で数珠繰りなどを体験した。

2回目となる名古屋会場では、中国ほか台湾、ドイツ、インドネシアなどの留学生20人の応募があった。名古屋大8人、愛知淑徳大3人など8校からの応募で、12月21日、建中寺本堂で、本を受け取った。その後、建中寺の徳川家墓所を見学したほか、抹茶の接待を受けるなど日本文化の一端を体験した。三カ所全体で、大学院生54人、学部生20人、研究生3人ほか（詳しくは別掲記事参照）。

経験は宝物

趙 佳（中国・日本女子大学）

今年、日本で留学して5年目になった。時々、自分が母国語以外の言葉をしゃべっているのがとても不思議に思う。自分が歩んできた道を振り返ってみると、笑いたくなったり、泣きたくなったりする。時には自分が高校を卒業して日本へ留学しに来なければ、今、何をしているのだろうと想像してしまう。国にいる高校の友だちと、違う道を歩んでいるのはわかっている。

そして、違う人生にもつながり、生まれ変わった自分を見つけることもできたと思っている。

日本に来て、親戚の伯母の家に住むことになった。伯母は厳しい人で、いつも人を諭すような話し方で、私に日本のことを教えてくれた。怖くても、泣きたくても、涙を出せなかった。同じアジアで隣国なのにもかかわらず、生活習慣や文化の違いはこんなに大きいのだという驚きは、日本に来て初めて実感できた。若いせいか、自分から挨拶することも、人の目を見て話すこともできなかった。とにかく伯母に怒

られてばかりで、日本に来て1年目の自分は不安の日々を送っていた。

そして2年目になった。学びたいことを身につけ、日本語学校を卒業したら、大学に行こうと心の中で決めた。福祉についての勉強と、日本語能力試験のN1レベルをめざし、毎日遅くまで勉強していた。がんばった甲斐があって、N1試験に合格し、大学にも合格した。愉快的な生活を過ごしながら3年目に入った。進学し、引っ越しもした。新しい環境に慣れなく、不安で落ち着かない自分がもう一度現れた。今度こそ壁にぶつかっても一人で乗り越えようと決意し、大人らしく自立した

2014ブック・ギフト贈呈内容

- 応募者数
東京…23名 関西…36名、名古屋…20名
- 授与式参加者数
東京…20名 関西…35名、名古屋…20名
- 応募者国
東京…中国15名、韓国6名、台湾1名、ベトナム1名
関西…中国23名、韓国5名、台湾3名、インド2名、スリランカ1名、ベトナム1名、モンゴル1名、名古屋…中国18名、インドネシア1名、台湾1名、ドイツ1名
- 応募者大学別一覧（応募者数順）
東京…立教大学6名、武蔵野大学3名、首都大学東京2名、拓殖大学2名、中央大学2名、日本女子大学2名、法政大学2名、青山学院大学1名、亜細亜大学1名、東京大学1名、一橋大学1名
関西…京都大学16名、大阪大学7名、同志社大学3名、関西大学2名、大阪工業大学1名、京都造形芸術大学1名、近畿大学1名、成安造形大学1名、梅花女子大学1名、花園大学1名、阪南大学1名、佛教大学1名
名古屋…名古屋大学8名、愛知淑徳大学3名、愛知大学2名、愛知教育大学2名、愛知県立芸術大学2名、愛知県立大学1名、名古屋学院大学1名、名城大学1名
- 応募者在籍一覧
東京…大学院13名、大学10名
関西…大学院27名、大学7名、研究生2名、名古屋…大学院14名、大学3名、研究生2名、他1名

女性になりたいとめざしていた。4年目の私は、「考え方が日本人に近い」とよく言われるようになった。それはほめ言葉だ。ほめてもらえるまでに4年もかかった。日本で失敗したことがたくさんあるけど、成功した喜びは一生忘れないと思う。

今、5年目になった自分。過去4年間を振り返ると、感謝の気持ちがいっぱい。私を支えてくれた方々がいないければ、今の自分はいない。留学生活はまだまだ続いていき、日本で体験したすべての経験は、私の宝物である。

幸せな留学生活

ラム チェット マイ（ベトナム・拓殖大学）

日本は私の人生初の外国です。初めて自分の国と違う他国の土を踏む瞬間、「ここはベトナムではない。これから何が待っているのかな」と考えました。

日本での留学生活は、いろいろな知らないこと（知識）と出会い、考えが違ふ人々（思考）と出会うことができます。私にとって留学というのは、知識を得ることだけではなく、異文化体験、自文化探求、また自分の人生観・世界観を改めて認める旅です。ですから、毎日惜しいことなく、有意義で充実した留学生活を送っています。

私は、決して富裕な家庭から来たのではありません。自転車部品を作る父のもと、家族6人で生活していました。2年前、不景気のため、父は仕事を休まざるを得ませんでした。その時、自分は家族のことを何も助けられなくて、心苦しく思いました。

留学費用だけでも自分で稼ごうと思って、精いっぱいアルバイトをしています。奨学金がもらえるように、一生懸命勉強をがんばっています。たいへんですが、勉強にアルバイトに忙し

い生活から得るものはたくさんあります。

仕事を通して、日本人の普通の生活にふれることができ、日本人の家族（バイト先の同僚）と知りあえたこと、日本の職場のマナーを身につけられたことなど、それは価値がはかれないほど大きな経験だと思います。

あと1学期で、拓殖大学大学院の博士前期課程が終了します。国に帰って、「日本の留学はどうだった」と聞かれたら、「とても幸せでした」とはつきり答えられます。毎日に小さな発見があって、頭が豊かになり、考えが世界視野に変わり、また将来に自分が向かうべき道もだんだん見えてきました。

やさしい日本、日本人に感謝を伝えたいです。日本の留学生活があるからこそ、私の人生が変わりました。

留学5年間を振り返って

趙 瑞琳（中国・武蔵野大学）

私は、2009年3月29日に初めて日本に来た。あっという間にもう5年になった。今年3月に、無事に2社の内定をもらって、就職活動も計画通りに終わった。あと半年で、卒論もすっかり完成するようであれば、学生生活も円満に終われると思う。やっと落ち着いたところで、自分の5年間の留学生活を振り返ってみたいと思う。

2009年3月に、日本語が全くできない私は、日本語学校に通いながら、人生初めてのアルバイトを始めた。個人経営の居酒屋で、洗い場からやり始めた。店長は50代の日本の方で、18



大本山増上寺でのブック・ギフトin Tokyoの授与式

歳から料理の仕事をやってきた非常に厳しい方だった。最初の半年、怒られるのはほぼ毎日だった。しかし半年後、仕事に慣れて、ほめられることはないが、厳しい口調が少なくなってきた。約3年半、そこで働くことになった。最後の日に、店長が「3年間よくがんばったな。ありがとう」と言ってくださって、涙が止まらなかった。

その後、あるきっかけで、JTB本社のアルバイトをすることになった。週に3回だけだが、たくさん勉強になったことがある。そして就職活動中に、その学んだことを表現できたことで2社の内定をいただいた。9月のインターンシップから3月中旬まで、大学の授業とアルバイトを両立させながら、すべての隙間を利用するようにしていた。一日に、多い時は3社の面接を受ける時があった。また、家に帰ったらエントリーシートを書いたり、webテストをやったりするのが日課だった。説明会参加90社以上、一次面接に参加したのは50社を超えた。身体的にも、精神的にもすごく疲れていた。しかし、諦めずに努力し続ければ、必ず結果が出ると信じてやってきた。第一希望群の会社からも内定をもらって、就職活動を終わりにした。

この5年間を振り返ってみたら、たいへんなことがいっぱいあったと思

う。しかし、そのたいへんさこそ、自分の留学生活の真の意義だと今思っている。来年社会人になるので、あとわずか半年もない留学生生活を充実して送っていきたく思っている。悔いのない留学生生活を円満に終え、新たな社会人生活を迎えるため、がんばっていきたく思っている。

人とのつながりに感激

康 恵 (中国・阪南大学)

日本に来てから早1年半になりました。私は中国の湖南省出身で、現在は阪南大学企業情報研究科に所属しております。

日本での1年半は、今までに経験していなかったこと、今まで勉強していなかったことを体験したり、勉強したりしています。留学生であるため、外国人だけ感じられることがいっぱいです。日本での学習はゼミ制で、ゼミの先生は非常に責任を持っているとお世話いただきました。一週間に1回のゼミで、最近読んだ本の感想を発表するほか、より深い日本経済の動向、または世界経済の動向の話などを聞かせていただいたりしています。

ゼミでみんなと勉強のテーマを討論していたりして、より広い視野で物事が見えるようになった気がします。



大本山知恩寺でのブック・ギフトin Kansaiの授与式。

中国の授業では、先生から教えられる一方ですが、日本でのゼミの授業は非常に充実感と達成感があります。そして、他の学生のコメントを聞いて、たくさん勉強になりました。日本に来て、日本の方々の習慣、考え方とかを理解するために、日本文化を学ぶのは大事だとわかりました。さらに重要なのは、相手を理解する姿勢、また自分の主張していることをわかってくれるように工夫することです。

勉強以外にも、学校の連携で、小学校・中学校のいろいろなイベントに参加しました。例えば、ついこの前に参加した田植え行事で、初めて田んぼに足を入れました。小学校5年生の子どもたちといっしょに、わいわいしながら稲の苗を慎重に一束一束を田んぼに入れました。稲の苗を一つひとつ大切に植えて、食の大切さに感謝しながら、農業に携わっている人たちに敬意を覚えました。それに、将来を担う子どもたちを育てる日本の教育者たちの姿に感動しました。日本で楽しい毎日を過ごしています。

私は私費留学生ですので、中国の両親の仕送りで学費を払う一方で、生活費を稼ぐために、教科書と関心を持つ本を買うためにアルバイトをしています。浄土宗平和協会の「ブック・ギフト」事業は、学校の先生から聞きました。私費留学生希望の図書を支援するプロジェクトは、日本人の世界への強い平和の願望を発信し、平和の種を異なる種族、異なる宗教の人々へと撒いているのだと思っています。去年も「ブック・ギフト」に申し込んで、幸い浄土宗平和協会から非常にほしかった本をいただきました。日本人の他国の人

に対する善意の極みだと思っていて、このような人と人とのつながりに感謝しています。

この恩恵のおかげで、自分も微力ながらも一生懸命に勉強して、世界平和に貢献したいと思っています。

留学生活は挑戦

崔 玮涵 (中国・名古屋大学)

気がつけば、留学が始まって1年が経った。今となって、その過程を振り返ってみると、たくさんの挫折があった。でも不思議なことに、とんでもない挫折があったにもかかわらず、自分の今までの努力をほめたい。その努力があつて今の自分がある。今までと違う自分がある。それが成長だと思う。

留学生活といえば、色とりどりな日々というイメージがあった。確かに新鮮な人との出会い、見知らぬ景色を探し、充実した生活を送ってきた。でも、留学生活は生活であると同時に、挑戦でもある。外国に留まって、自分の選択が正しいことであると証明する。人によってその挑戦の難易度も変わってくるだろう。

最初の3ヶ月は、天国から地獄に墮ちたかのような感じだった。生活そのものが負担となって、何をやるにしてもうまくいかなかった。そして徐々に元気になって、やっと生活がまともになったと思いきや、勉強で壁にぶつかった。それが解決すると、また体調を崩した。一難去ってまた一難。生活は苦難のかたまりのように思えた。

そして留学生活はただの充実した休みではなくって、修行のように思えた。自分は世間知らずの学生から、社会に目を向けるようになり、周りに「大人になった」と言われるようになった。たった1年も経たない間に、いろんな景色を見て、いろんな人

に、いろんなことを考え、成長してきた。まだまだ先のある留学生活、まだまだ変化が起こるだろう。この先、どんな自分に会えるのかが楽しみだ。

この先まだまだ苦しい時や悲しい時もあるに決まっている。でも、これは留学のせいではなくてただの生活。生活にきちんと目を向け、逃げも隠れもせず、真剣に立ち向かうことが、生きていくのに最も重要なものであると気づいた自分に感謝したい。気づかせてくれた留学生活に感謝したい。

3年前、北京の地下鉄で留学すると決めた時、自分がこうなるとは想像もしていなかった。

1年半後、留学生活がこれから自分をどう変えてくれるのかを今、研究室に座って書いている自分だが、やはり今後も想像すらできないのだと思う。

セツコちゃん

肖 俊 (中国・愛知県立芸術大学)

愛知県立芸術大学大学院に入ってもう何ヶ月も経った。キャンパスでは、数匹の猫がのんびりと散歩している場面に出くわした。その中で「セツコ

ちゃん」という猫がいた。

セツコちゃんを見ると、我慢ができずにしょっちゅう彼女をなでた。彼女は、この遠方からきた見知らぬ私を避けずに、自然に身を任せていた。時折あくびをしたり、背筋を伸ばしたりしている。この前、卒業した先輩からセツコちゃんのことを聞いた。

セツコちゃんが愛知県立芸術大学で生活して、もう10年余りの間になり、私たちの大先輩といえる。10年前に、どういうわけかケガをして、手術して治療しなければならない状況になった。その時、先輩たちは積極的に義捐金を募り、セツコちゃんの命を救った。その時から、セツコちゃんは人なつっこくなったのかもしれない。セツコちゃんが健康で楽しく生活してほしいと願う。

最近の大学院2年生の発表会では、同じ研究室の野田さんから、学校にいる猫が負傷し、手術治療が必要なので、募金を集めていて、みんなに援助の手を差し伸べてほしいという話があった。研究室の中で、彼女が負傷した猫たちのために作ったポスターと募金箱を見て、猫たちの健康状態を聞いた。この負傷した猫は、雌の猫で最近

子猫を産んでいた。最近、キャンパスの中で猫の数が急増し、そこで猫の数を抑えるため、何匹かの猫に産児制限をすることに。今、野田さんたちは猫の数を確かめることに忙しそうだ。おそらく、野田さんが猫を深く愛しているからこそ、彼女の作品には猫の姿が常にある。作品の中の猫たちは、自由に、のんびりと、また素晴らしい生活を楽しんでいる。猫たちも彼女に多くの搜索のインスピレーションを与えているのだろう。

ロシアの文学理論家のチェルヌイシェフスキーは、芸術が生活から生まれ、また生活より高いとも言った。日常生活の中で、周りが気がつかない物事から、さまざまな情報を発見することができる。留学生活に、今回の猫を救う行動から、人々の生命に対する尊重や周りの物事に対する配慮が見られた。森田宏幸氏が監督をする「猫の恩返し」という色彩あふれるアニメーションが思い出された。私たちは、猫の恩返しを求めないが、セツコちゃんから回答を得るようになった。それは人に信任を築くということだ。だからこそ、我々は猫たちをよりよく保護し、愛護する必要がある。

ブック・ギフトで私費留学生に贈呈した書籍一覧(一部)

〈東京〉

中国思想史、「近代の超克」とは何か、和辻倫理学を読む もう一つの「近代の超克」、支那論、21世紀 世界遺産の旅、新・風景スタンプ集 北陸・東海・近畿、新・風景スタンプ集 北海道・東北、柔石老子の言葉、新装版 商談のための日本語 中級、カリスマ同時通訳者が教える ビジネスパーソンの英単語帳、英会話1000本ノック・ビジネス編(CD-ROM付)、しごと日本語 メール書き方編、ツアラウストラ、Hirsch・Smale・Devaney 力学系入門—微分方程式からカオスまで、カラー図解 アメリカ版 大生物学の教科書 第4巻 進化生物学、森山大道 オン・ザ・ロード、現代写真論、明快入門コンバイラ・インタプリタ開発 C処理系を作りながら学ぶ、美少女戰士セーラムーン 完全版(5)、仮名手本忠臣蔵(ビジュアル版 日本の古典に親しむ)、レポート論文の書き方入門、近松門左衛門名作文楽考1 女殺油地獄、Naoshima Insight Guide 直島を知る50のキーワード、ポケットブロッグレッシュ 中日・日中辞典、どん どん身につく韓国語入門、超簡単まんがイングリッシュ—今日から使える韓国語、新版 中国語通訳への道 CD2枚付、京洛四季、箱の中、歌川広重 名所江戸百景、民法の基礎(2) 物権、ハイブリッド民法(3) 債権総論、民法II 第3巻 債権各論、鏡と皮膚—芸術のミューロギア、美しい日本語の辞典、「十二国記」画集(第一集) 久遠の庭、不思議の国のアリス—ルイス・キャロルとふたりのアリス(球磨堂グラフィックス)

〈関西〉

PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2015、現代日本の少年院教育一貫的調査を通して、加害者臨床の可能性、中国文学史 新著(増訂本)上巻、唐代の人は漢詩をどう読んだか—中国音韻学への誘い、レポートの組み立て方、世界ウィスキー大図鑑、世界のビール図鑑、果てなき希望 ボディビルに憑かれた人々、お菓子づくりでまよったら、焼き菓子の発想と技法、国会運営の法理—衆議院事務局の視点から、新訳 共産党宣言—初版ブルクハルト版、賃労働と資本—賃金・価格・利潤、マネーの進化史、劣化国家、音楽的コミュニケーション—心理・教育・文化・脳と臨床からのアプローチ、よくわかる音楽理論の教科書(ゼロから学ぶ身につく本)、自閉症スペクトラムとは何かひとの「関わり」の謎に挑む、「人間と物質展」の射程—日本初の本格的な国際展、現代アートの巨匠、アート—芸術が終わった後のアート(カルチャー・スタディーズ)、芸術の陰謀—消費社会と現代アート、日本語入門—しくみと成り立ち、国語学、王朝物語を学ぶ人々のために、新講 源氏物語を学ぶ人々のために、概説—コーパス言語学—手法・理論・実践、新編 認知言語学—キーワード事典、テキスト用用語辞典、手織り大全、草木染め大全、内定獲得のメソッド 面接担当者の質問の意図、経営戦略史、ビジネスモデル全史、中世日本の宗教テクニクス体系、ライフストーリー論、日本語教育文法のための多様なアプローチ

〈名古屋〉

TOEIC究極の模試600問口前田、「人の上に立つために本当に大切なこと、最高の戦略教科書孫子、スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン、「言語接触とビジョン19世紀の東アジア」文任交渉と言語接触研究—資料集、福沢諭吉著作集(第一巻) 西洋事情 マリオンソシエ、The Phorolog of Morgoliar, Aspect An Introduction to the study of Verbal Aspect and Related Prlated Problems、哲学大図鑑 THE PHILLOSOPHY BOOK、心理学大図鑑 THE PSYCHOLOGY BOOK、フラット化する世界—トーマスフリードマン上中下、国富論—アダムスミス岩波文庫、池永康展画集君想ふ百夜の幸、池田学画集1、ピロビニとロシア絵本の黄金時代、Excelで学ぶ統計解析入門Excel 2013/2010対応版、語学はどのように学ばれるか—外国語学習—教育に生かす第二言語習得論、概説—コーパス言語学—手法・理論・実践、国際金融危機後の中国経済—内需拡大と構造調整に向けて、信用リスク入門、中国経済の成長持続性—促進要因と抑制要因の分析、全史×成功事例で読む「マーケティング」大全、日経ビジネス 経済・経営用語辞典、国際金融のしくみ第4版、財務諸表監査の理論と制度(基礎編)、マーケティング戦略(第4版)(有斐閣アルマ)、改訂版 教育課程編成論—学校は何を学ぶとどこか、「究極の身体」知識基礎社会を築く子どもを育てる(シリーズ学びの潮流)、「21世紀スキル:まなびと評価の新たなカタチ」、財務会計(第12版)

浄土宗平和協会 第8回スタディツアーに 20名が参加



9.11モニュメントには犠牲者全員の名が刻まれていた

NYグラウンドゼロで平和の祈りを捧げ、アメリカで宗教を学ぶ9月1日から9日まで、浄土宗平和協会は恒例のスタディツアーを行った。ニューヨーク、ボストン、サンフランシスコを回り、アメリカの宗教事情を垣間見た。仏教系の諸宗派が、想像以上に活動していることなど参加者はそれぞれに米国宗教事情を体験した。浄土宗平和協会は、2年に一度、各地のNGOの活動視察などを行うスタ

ディーツアーを行っている。今回は、カルフォルニア大学バークレー校マーク・プラム教授のアドバイスで、ニューヨークの9・11アメリカ同時多発テロ事件で破壊された貿易センタービル跡のグラウンドゼロでの法要、ボストンのハーバード大学での講義、カリフォルニア大学での講義を中心に行程を組んだ。タイムズスクエア近くのダウンタウンのホテルだったので、参加者はそれ

ぞれにダウンタウンにある美術館、博物館などを訪れていた。今回の主目的のひとつである同時多発テロ・グラウンドゼロでの法要を行った。公園化されているグラウンドゼロ内での宗教行為は、禁止されており、参加者全員が意念（心の中でお念仏を称えること）をもって法要を行った。

3日目は、街から4時間ほど高速をとばして、天台宗ニューヨーク別院を訪れた。寺の周辺には日系人は皆無で、白人による白人のための仏教寺院だった。外観はプロテスタントの教会、牧師館そのままだが、教会には薬師如来が鎮座していた。お経や「往生要集」の読書会に様々な社会活動プログラムが用意されていた。総代さんも当然白人であった。また、街中にある一般的なトリニティーチャーチも訪れ、牧師さんから「祈りと社会活動」を中心に教会が動いているとうかがった。

ボストンでは、ハーバード大学で、安部龍一教授からアメリカの宗教の動向をうかがった。「ハーバード大では仏教を研究する生徒が20年間で4倍程度増えている。一般教養でも、日本の文化史を絡めながら、経典を読んでいる。ただ、日本人留学生が5～



ハーレム地区にあるプロテスタントの小さな教会で牧師の話を伺う

7人に対して中国人は170人、韓国が70人、非常に日本人の少なさを憂慮している。日本仏教はもっと社会貢献をすべきだし、宗派にこだわりすぎている」と語った。

次いで、西海岸に飛びカルフォルニア大学バークレー校にうかがった。マーク・プラム教授は「1898年にカルフォルニア大学に東洋学科ができ、哲学として仏教を勉強する学生はいても、仏教に帰依するものは移民だけだった。戦後50年代になって移民でない学生が仏教に帰依した。現在、例えばカルフォルニアには三つの禅センターがあり、すべて白人で運営されている。『白人仏教』は非常に社会活動に熱心だ。例えば男女平等、差別問題、環境保護運動など。刑務所の中で法話や座禅をする活動を行っているグループもある」と語った。

仏教を学び、体験するアメリカ

尾張教区浄蓮寺 長谷川みき

第8回のスタディツアーに参加させていただきました。アメリカのニューヨーク、ボストン、サンフランシスコと特色のある都市を訪問し、あらためてアメリカの広さを実感しました。今回は、NY郊外にある天台宗ニューヨーク別院・NYの町中にある教会・サンフランシスコにある浄土真宗の寺、これらの宗教施設の訪問と、ハーバード大学・カリフォルニア大学バークレー校にて講演を拝聴。もうひとつの目的、「グラウンドゼロ」での法要は、いろいろな規則に阻まれ、黙祷となったのは残念でした。

NYのマンハッタンには、様々な人たちが暮らしています。それぞれが、自分たちのコミュニティを作っているためか、道筋が変わると生活する人の雰囲気は全く異なります。シャツ1枚の値段が1000\$と1\$という、貧富の差も桁外れです。

私の中に、アメリカという自由の国というフレーズが出てきますが、今回感じたのは、自由には自由を守るための規制があるのだということです。グラウンドゼロでは、団体の集会、合唱、読経等が一切禁止されていました。

仏教に関心を持つ人がたくさんいる、ただしこれは「仏教」であって、日本の「宗派仏教」「先祖供養仏教」ではないとのこと。在米日本人による「移民仏教」は、日系の意識が少なくなると共に減少し、禅センターなどの「白人仏教」が発展しています。伝統宗教から改宗してというのではなく、そのままの上に仏教を学び体験する、なにか、満たされないものを模索しているようで、日本にも共通している事柄ではないだろうかと感じました。

なにか明確な答えが出る旅ではありませんでした。疑問や、これからのあり方等、考えさせられることばかりでしたが、マーク・プラム先生が仰った「考えてください、悩んでください」という言葉が印象的でした。



グラウンド・ゼロでの祈り

【第8回スタディツアー参加者（敬称略）】

萩野順雄、渡部徳史、荒井博之、田中義道、稲村博道、林清方、秦博文、秋田光彦、山口洋典、深谷孝玄、深谷雅子、上杉敬子、

澤木洋子、中野早智子、長田美智子、長谷川みき、川田光博、川副春海、嘉藤哲也、戸松義晴

以上20名

シリア難民支援事業報告

シリア内戦の激化により、レバノンには避難民100万人が流入。レバノン国内のパレスチナ難民キャンプにもシリアからの避難民が激増しています。パレスチナ子どものキャンペーンでは、2012年秋にヨルダンでシリア避難民支援を開始し、2013年はレバノンのパレスチナ難民キャンプに仮住まいする女性と子どもの避難民世帯を対象とした支援をしました。

2013年以降、シリアに住んでいたパレスチナ難民5万人以上がレバノンの難民キャンプに避難していて、キャンプ内の住民数は以前の7倍に膨らみ、劣悪な生活環境は更に悪化して、国連からNGOに緊急協力要請が出されるほど困難を極める状態に陥りました。これらのパレスチナ人は、同じ難民とはいえシリア人避難民とは異なる待遇に置かれ、レバノンの滞在ビザなどでも厳しい扱いを受けています。

キャンプ内では、食料・生活物資支援や保健・衛生状態の改善が緊急課題となる他、精神的外傷や生活不安によるストレスの影響も大きな懸念事項として挙げられています。学校や幼稚園に通えない子どもも増加し、居場所のない子どもたちがキャンプの路上でたむろする光景が目立つようになるなど、早急な対応が求められてきました。

当会では2012年秋にヨルダンでシリア避難民支援を開始し、13年4

月よりレバノンに活動現場を移しました。長年のパートナーである現地NGO「子どもの家」、および専門的な心理ケア機関の「ファミリーガイダンスセンター（FGC）」と連携して進めています。

家庭訪問と食糧・生活物資の配布

難民キャンプ4か所で現地ソーシャルワーカーが1527世帯に家庭訪問を実施。うち1373世帯に対しては継続的な訪問を実施。地域の生活情報冊子を作成・配布しました。また各世帯が抱える問題に応じ、子どもの保育・心理サポート／医療支援・メンタルサポートの活動を紹介し、これらを通じて、孤立しがちな世帯のコミュニティ参加や地域におけるネットワークの強化を促し、孤立感の軽減と安心感の増強を図ると共に、支援を必要とする人が取りこぼされることがないようにセーフティネットの基盤としています。

5～7月にかけては、米、砂糖、茶、牛乳、チーズ、牛肉缶詰、食用油、豆、石鹼、シャンプー、生理用品、食器用洗剤、蚊よけスプレーなどを配布。またガレージなど特に劣悪な住環境の世帯には扇風機も配布しました。越冬対策として10月と3月に、食

糧の他、毛布やストーブなどを配布しました。

幼稚園・学童クラブへの受け入れと心理サポート

4つの難民キャンプで子どもたちが安全で安心できる日常的な居場所の提供、トラウマやストレスの緩和を目的とした幼稚園・学童クラブへの受け入れとして、新規クラス開設、時間割の工夫等によるクラス数増加支援、イベント開催、心理サポートを実施。2885人の子どもたちが参加しました。

保健支援

診療機会の不足や医療費負担の不安がある中、特にサービスの少ない歯科、産婦人科、および精神科・臨床心理の分野で、子どもの家、ファミリーガイダンスセンターの協力のもと10580人の方に対して保健支援を実施しました。

専門家によると、顕著に見られるケースとして戦争体験によるトラウマの他に家庭内暴力があります。また過密な住環境が精神状態の回復を妨げたり、悪化の原因となっているため、子どもだけでなく家族へのメンタルサポートや介入なども行いました。

浄平協からのご支援は、主として食料支援や子どもへの給食に使わせていただきました。



バダウィ・キャンプの幼稚園

「第7回浄土宗平和賞」メ切り迫る ～ぜひ多くの推薦をお願いします～

浄土宗平和賞とは、浄土宗の教義を広め、儀式を行うという寺院の活動にとどまらず、「社会参加する仏教」を志向し、平和推進、国際協力に関する活動を始め、環境保護活動、国際交流活動、地域福祉活動など、幅広い分野で公益のための活動を行っている浄土宗寺院・教師または浄土宗教師が代表（中心的な役員）を務める団体を顕彰し、支援するものです。また同時に浄土宗平和協会の広報誌「ダーナ」などを通じて受賞寺院（浄土宗教師）の活動内容や、ノウハウなどの情報を提供し、活動事例として各会員の社会参加型事業への取り組みを啓発、醸成することを目的として創設されました。

◆賞の内容

賞状・副賞（50万円）

◆表彰対象

1. 浄土宗寺院・教師
2. 浄土宗教師・寺族が代表（中心的な役員）を務める団体

◆選考方法・表彰

浄土宗平和協会の理事会によって選考し、浄土宗平和協会総会の席上、表彰し副賞を授与します。（平成27年6月頃を予定）

◆募集方法

1. 公募（自薦他薦問わず）
2. 教区長、教化団長、浄青会長、浄土宗平和協会会員による推薦

◆応募・締切

所定の推薦書に必要事項を記載の上、当協会事務局まで郵送してください。

応募の締切は平成27年1月末とします。

◆受賞対象の活動事例について

以下は候補となる活動事例の一部を挙げたものです。
※国際交流団体を寺族及び檀信徒が中心になってつくり、海外の恵まれない人々への教育・医療・福祉その他の人道支援を継続的に行っている。
※日本で生活する留学生に奨学金を送り、生活の支援を行っている。
※日本文化の紹介のために、地域と一緒に、寺を会場にお茶やお花、能楽などのフェスティバルを行い国際交流を図っている。
※地域NGOを組織し、町並み保存、伝統的景観保存など“まちづくり”運動を行っている。
※地域の盆踊り大会を主催し、町を挙げての一大イベントになっている。

《推薦書送付先／問い合わせ》

JPA東京事務局（平和賞担当：杉浦靖俊）
〒191-0011
東京都日野市日野本町2-12-13
大昌寺内
TEL：042-581-2125 FAX：042-581-2125

「ガザのいのちを守りたい」増上寺境内で開催



「ガザのいのちを守りたい」（主催・浄土宗平和協会、共同主催同実行委員会）と題した集会在8月23

日、増上寺境内で行われ、平和を祈願する市民ら約200人が参加した。ことし7月に始まったイスラエル軍によるパレスティナ・ガザ地区への軍事攻撃では、多くの犠牲者が出た。集会では、イスラエル、パレスティナ双方による一連の暴力と無差別攻撃に抗議し、いち早い休戦を求め、犠牲者の数と等しい300の靴を、増上寺境内に並べて、なくなった子どもた

ちの名前を読み上げた。集会趣意書には、「私たちは、日本に住む市民として、ガザの人々が一刻でも安心して過ごせる時間を取り戻すことを願い、その思いをガザの人々に届けるためにも集会を開くことにした」とうたっている。集会の様子は、マスコミ各社が取り上げ、朝日新聞の天声人語でも取り上げられた。

主催は浄平協ほか、実行委員会（アーユス仏教国際協力ネットワーク、JVC、パレスティナこどものキャンペーンほか8団体）。



宮林昭彦台下ご遷化

大本山光明寺法主で、浄平協副総裁宮林昭彦台下が7月10日、極楽浄土に正念往生を遂げられた。世寿83歳。

9月16日、大本山光明寺で行われた表葬儀には、浄平協から、荻野順雄理事長が葬儀に参列した。

宮林台下は昭和7年長野県生まれ。同28年大正大学仏教学部を卒

業、同30年同大大学院修士課程を修了。その後も仏教学の研究を続け、同53年には同大教授となり、浄土宗学監、人間学部長などを歴任。他にも、日韓仏教交流協議会会長、全日本仏教会副会長などを務められた。

浄平協では、平成18年に副総裁となられ、浄土宗平和賞などのプ



レゼンターとして、永年ご尽力いただいた。

三橋國民先生 都民栄誉賞を受賞

浄土宗平和賞のレリーフを制作して頂き、前号ダーナ巻頭においてもインタビュー記事に御協力頂いた、造形美術家の三橋國民先生が、プロ野球巨人元監督の長嶋茂雄氏、映画監督の山田洋次氏とともに平成26年度「都民栄誉賞」を受賞された。

『第2次世界大戦下の西部ニューギニアでの激戦と飢餓を切り抜け、重傷を負いながら生還された後、帰らぬ人となった多くの戦友への鎮魂と平和への祈りをライフワークとし、造形美術による創作に力を注いで来られました。社会活動として、戦争を知らない世代に戦争体験や平和を講演などで訴えてこられた貢献は多大』として今回の顕彰事由に挙げられている。

受賞に際し、今年94歳になった

三橋先生は『敗戦後<生きて還(かえ)れぬニューギニア>から、重傷を負いつつも生き残り、故郷の町田市に辿(たど)り着くことができました。以来、南溟(なんめ



い)の土くれと化していった僚友(りょうゆう)たちが「何を言いたかったのか?」を、戦争を知らない次世代の方たちへ確(しっか)りと伝えたく、生業(なりわい)である造形美術を通して「鎮魂(ちんこん)」「芸術文化昂揚(こうよう)」の二つをライフワークとしてまいりました。残り少ない日々を更に努めたいと思います』とコメントされた。

滋賀支部で平和誓願法要

浄平協滋賀支部は11月29日に甲賀市大徳寺で、平和誓願法要を行った。表白で、「国豊かに、民安くして、兵戈は用いることなく、四海長えに清平ならしめたまわんことを」と世界の平和を祈願した。

法要後に佛教大学教授原田敬一先生より「仏教と平和」と題した講演をうかがった。

JPA東京事務局より

報告●浄平協事務局次長・服部光雅

平和協会の事務局に参加してから、早や8年が経とうとしています。

当初は何もわからず、よく(無駄に?)事務局会を開いていました。今では「平和念仏募金運動」「ブック・ギフト事業」「浄土宗平和賞」「スタディツアー」の部門で、それぞれに担当者がいて、各氏に任せておけば大丈夫。インターネットのお蔭で、東京・京都・佐賀と離れた人との意思の疎通もスムーズに図られ(かく言う私はあまり参加できておりませんが……)、室長・理事のみなさま方の御意見を伺うこともできます。

東京事務局会は、理事長および事務局長の指示により、各担当者から提出された案の確認の場となっていて、開催回数も当初から比べれば格段に少なくなっています。当初はどれだけの事ができるか不安だらけだった各活動も、関係各位のご努力で年を追うごとに充実してきております。

協力いただいているたくさんみなさまに、この場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

また、東京事務センターもよく機能し、日々煩雑な事務処理を行って来ております。美香さん、どうもありがとう。お疲れ様です。

以上、東京事務局からでした。

私も浄平協会員

東京教区貞林院瑞正寺
林清方師



今回の「私も浄平協会員」は、東京教区北部組貞林院瑞正寺の林清方師。今号で報告している第8回のスタディツアーに参加いただき、その意義にも賛同いただいた林師。東京教区の教区会議員、また一般社団法人仏教情報センター理事をお勤めで、同センターの仏教テレホン相談員として11年もの長きにわたって活動していらっしゃいます。

荻野理事長とは同じ東京教区北部組に属しておりますので、青年会活動の頃からの付き合いです。理事長からお誘いをいただき浄平協の会員となりました。

浄平協の活動は以前より浄土宗新聞や宗教関係の情報紙を通じて知っておりましたが、留学生への支援をはじめ海外での災害に対する援助など、他宗ではあまり見られないような独自の活動に興味を持っておりました。

過去のスタディツアーもパレスチナ、バチカン、ネパールなどなかなか経験できないような地域と研修内容であり、いつか機会があれば参加したいと考えておりました。そんな念願が叶い、平成26年スタディツアーに初めて参加することができました。

今回はニューヨークの9.11テロ事件の現場ワールドトレードセンターが建っていたグラウンド・ゼロで、犠牲者の追悼慰霊を行うとともに平和を祈るというものでした。現地

はすっかり整備され噴水のモニュメントが犠牲者を静かに見守り、また遺族の方々に癒しているかのように感じられました。

ニューヨークハーレム内にあるプロテスタント教会への訪問やボストンのハーバード大学及びサンフランシスコのカリフォルニア大学バークレー校でそれぞれの教授による宗教学の講義は、いずれも興味深いものばかりでした。特にハーバード大学の阿部龍一教授のお話の中で、現在アジアからは中国からの学生が多く日本からの学生が少ないことを指摘され、宗教学を目指すような学生を宗としても支援できるようなシステムが必要ではないかと述べられておりました。これからは若い僧侶の方々もこのような研修に積極的に参加され、海外から仏教を見つめ直すような国際的センスを磨くことも必要ではないかと感じました。このような場を与えていただける浄平協の活動に今後も期待しております。

浄土宗平和協会（JPA）

◎ 会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



ブックギフト in Tokyoで本を受領した留学生

[入会要項] 浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

正会員

対象……浄土宗教師・寺族
会費……年間10,000円

賛助会員

対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体
会費……檀信徒会員 年間 2,000円
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートを贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダナーに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。

◎ 平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある愚者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一との方針のもと、国

際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。
◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブック・ギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 スタディーツアー・NGO支援

浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……荻野順雄	監事……塩竈義明
副理事長……小泉顕雄	村上真瑞
小林正道	専門委員……戸松義晴
理事……橋田邦俊	茂田真澄
石上源應	事務局次長……服部光雅
山川正道	事務局……中野隆英
深谷雅子	杉浦靖俊
金田進徳	齋藤隆尚
東海林良雲	鍵小野和敬
泉 禮子	大島康裕
事務局長……川副春海	嘉藤哲也
	齋藤美香

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒121-0832 東京都足立区古千谷本町2-12-18

電話03-3855-8781 Fax03-3855-8782 メールjpa-info@jodo.or.jp

郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】

